

文教委員会会議記録

文教委員会委員長 柳村 一

1 日時

令和2年1月15日(水曜日)

午前10時1分開会、午前11時31分散会

2 場所

第3委員会室

3 出席委員

柳村一委員長、伊藤勢至委員、千葉秀幸委員、城内よしひこ委員、高橋穂至委員、千葉絢子委員、斉藤信委員、小西和子委員、上原康樹委員

4 欠席委員

千葉盛副委員長

5 事務局職員

赤坂担当書記、須川担当書記、鈴木併任書記、森田併任書記

6 説明のために出席した者

文化スポーツ部

菊池文化スポーツ部長、岩渕副部長兼文化スポーツ企画室長、

藤田参事兼スポーツ振興課総括課長、

木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ2019推進室長、中村文化スポーツ企画室企画課長、高橋文化振興課総括課長、

佐藤文化振興課世界遺産課長、

菊池オリンピック・パラリンピック推進室特命参事兼ラグビーワールドカップ2019推進室特命参事、松崎オリンピック・パラリンピック推進室事業運営課長、

高松オリンピック・パラリンピック推進室連携調整課長兼ラグビーワールドカップ2019推進室大会運営課長

7 一般傍聴者

なし

8 会議に付した事件

継続調査（文化スポーツ部関係）

「ラグビーワールドカップ2019TM釜石開催について」

9 議事の内容

○柳村一委員長 ただいまから、文教委員会を開会いたします。

千葉盛委員は欠席とのことでありますので、御了承願います。

これより、本日の会議を開きます。本日は、お手元に配付いたしております日程により会議を行います。

これより文化スポーツ部関係のラグビーワールドカップ 2019 釜石開催について調査を行います。調査の進め方についてであります。執行部から説明を受けた後、質疑、意見交換を行いたいと思います。なお、説明は、プロジェクター等を使用して行うとのことですので、あらかじめ御了承願います。

それでは、当局の説明を求めます。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ 2019 推進室長

ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催の実施状況について御説明させていただきます。

それではまず、ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会が作成いたしましたスライドショーをごらんください。5分程度の所要時間でございます。

[スライドショー放映]

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ 2019 推進室長

それでは、お手元にお配りしております資料で御説明させていただきます。まず、資料 1 の左側の大会全体概要についてでございます。ラグビーの伝統国以外でアジア初のラグビーワールドカップということで世界中の注目を集めましたラグビーワールドカップ 2019 は、岩手・釜石開催も含め、大いに盛り上がったところでございます。予選プールの 3 試合が台風の影響により中止となりましたが、全体で約 170 万人の入場者、ファンゾーンの入場者が 114 万人、パブリックビューイングの入場者が 17 万人を合わせますと、300 万人を超える方々が試合をライブで楽しんだと聞いております。そして、ワールドラグビーの会長は、最も偉大なワールドカップとして記憶に残ると述べております。

2 の岩手・釜石開催に向けた 2019 年度の主な取組実績についてでございますが、平成 29 年 4 月にラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会を設立いたしまして、大会には賑わいの創出、受入態勢の構築、円滑な輸送の確保、安全安心の確保という四つの柱で取り組んでおります。

主な取り組みについてでございますけれども、賑わいの創出ということで、いわて・かまいしラグビー応援ガイドブックを日本語、英語の 2 カ国語で製作いたしまして、各開催都市や東北各県の観光案内所、主要駅などに配架いたしまして、スタジアムへのアクセス、ファンゾーンの内容、県内震災伝承施設の紹介等を通じた復興情報の発信のほか、岩手・釜石の食と観光地などの情報発信を行っております。

また、観客等の受入態勢の構築についてでございますが、スライドショーの映像にもありました大型オブジェを釜石鶴住居復興スタジアムの最寄り駅の鶴住居駅に設置いたしまして、観客等の写真撮影スポットとして都市装飾を行い、SNS 等を通じました岩手・釜石の情報発信に努めております。

そして、3、パシフィック・ネーションズカップ 2019、日本代表対フィジー代表戦についてでございます。仮設スタンド席を設置いたしまして、ラグビーワールドカップ 2019 釜

石開催と同様、1万6,000席で行う初めての国際試合ということで、観客輸送や医療救護、ファンゾーン等の運営についてテストを行っております。その結果、観客輸送はおおむね順調でしたが、写真にもありますが、最寄り駅からスタジアムまでのラストマイルでの入場待機列の整理、スタジアムからの帰路の誘導、そして飲食物の持ち込みなどといった、持ち込み禁止物の周知不足などが課題となったところでございます。

また、熱中症対策として給水所をスタジアム内に2カ所、スタジアム外のラストマイルに2カ所設けましたが、当日は最高気温が31度と高かったことによりまして、スタジアム内、ラストマイルの救護所、ファンゾーンも含めまして、救護所の利用者が46名、そのうち救急搬送者が7名になりました。本番ではより多くの外国人の来場も想定されるということで、会場内の多言語対応についてもさらに検討することといたしました。

これらの課題についてラグビーワールドカップ2019組織委員会と連携しながら改善策を講じて、4、ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催を迎えたところでございます。映像にもありましたとおり、9月25日に行われましたフィジー対ウルグアイ戦につきましては、ラグビーワールドカップ2019の名誉総裁であります秋篠宮皇嗣殿下及び同妃殿下の御観戦のもと、ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会が招待した子供たちによります復興支援への感謝のメッセージフラッグの掲出や、先ほどスライドショーで流れましたありがたいの手紙の合唱、選手入場時の黙祷、両国国旗や大漁旗によります応援ということで、復興支援に力強く取り組む姿を国内外に発信したところでございます。

また、10月13日に予定されておりましたナミビア対カナダ戦については、台風第19号の影響により試合が中止となりましたが、カナダ代表チームが台風災害ボランティア活動を、またナミビア代表チームが被災した市民を激励する交流会を行うなど、かけがえのない新たなきずなが生まれたところでございます。この様子は世界中に情報発信され、多くの人々に感動を与えるとともに、ラグビーのまち釜石、そして岩手を発信する機会となったところでございます。

また、大会を通じた地域振興、国際交流では、ファンゾーンでのパブリックビューイングやステージイベント、ラグビーの普及活動等のほか、復興情報を発信するためのブースを設置し、国内外から多くの方々に来場いただいております。また、県内各地で実施いたしましたパブリックビューイングについては、合わせまして約5,000人の方々が来場ということで、ラグビーを通じた新たなつながりが生まれる場となったところでございます。

最後に、5、大会のレガシーの継承～ラグビーをはじめとした岩手のスポーツ振興～についてでございます。スポーツの力が県民に大きな活力を与えることを改めて認識するとともに、ラグビー県岩手という面も発信できたことから、大会を記念したメモリアルイベントの実施や釜石鶴住居復興スタジアムを活用した大会、合宿の誘致、ラグビー体験会などに取り組んでまいりたいと考えております。

以上でラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催についての御説明を終わります。

○柳村一委員長 ただいまの説明に対し、質疑、意見等はありませんか。

○伊藤勢至委員 ラグビーワールドカップ 2019 は大成功に終わったと思っております。これは柳村一委員長を初め委員の皆さん、そして当局の皆さん、まさにワンチームのまとまりをもっての成功だったと思っております。そういう中で、自然界のなせるわざで何ともなりませんでしたが、あと1試合のカナダ対ナミビア戦があればもっとよかったと思っております。

三陸沿岸に集まった過去の最高人数は、約160年前の三閉伊一揆で1万5,000人といわれております。一揆が岩泉から発展しまして、岩泉、田野畑、田老、新里、大槌、釜石、そして遠野に行くわけでありますけれども、最終的に1万5,000人となりました。今回のラグビーワールドカップ2019釜石開催での1試合目の入場者数が1万4,000人という報道がございました。ですから、最後のカナダ対ナミビア戦で釜石鶴住居復興スタジアムを1万6,000人で満杯にして、三陸沿岸に集まった人数の新記録をつくりたいと期待しておりましたが、残念ながら試合が流れてしまいました。この間、27年前に三陸・海の博覧会もあり、釜石市がメイン会場で入場者数が8,000人でしたので、ぜひ1万6,000人をクリアしたいと思っておりましたが、それはそれといたしまして、大成功だったと思いません。

その中で、勝因の一つは、東北の中でただ1カ所、岩手県の釜石鶴住居復興スタジアムが開催会場に選ばれたことは、達増知事と野田釜石市長の連名による日本ラグビーフットボール協会への申し込みの成果であると思っております。仙台市は、御案内のとおり100万人の都市であります。秋田市も開催会場に手を挙げましたが、仙台市が手を挙げた時点で秋田市は手をおろしました。ところが、岩手県は新日鉄釜石にいた松尾雄治さん、あるいは亡くなりましたが、同志社大学出身の平尾誠二さんたちがラグビー対談の際に、ラグビーワールドカップを岩手県でやったらどうだという話が出まして、そこから始まって大きな火が広がり、最終的には達増知事と野田釜石市長の連名で申請をしましたことに勝因があったと思っております。仙台市は100万都市でユアテックスタジアムもあり、条件的には全く勝負にならないと思っておりましたが、最後は岩手県と釜石市が連名での申請の影響が大きかったと思っております。岩手県がもうちょっと運営の前面に出てもよかったですのではないかと思います。費用の分担について、全体の65億円の4割が国、4割が釜石市、そして2割が岩手県ということで、遠慮したのかもしれませんが、運営をするキャパシティーは、直前に北上市で開催された、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会開会式の成功した例をそのまま持ち込んでもらったことが非常に良かったと思っております。どうのこの言うつもりはありませんが、今後何か大きなイベントがあった際には、交通状況も変わってくることでありますので、沿岸に限らず、内陸から沿岸に人をどのように集めていくかと含めて、次なるイベントに期待を持ちながら、取りまとめをしておくべきだと思いますが、感想がありましたらお伺いします。

○菊池文化スポーツ部長 感想でございますが、情けないですけども、今もスライドショーを見ると感きわまってくる場所もありまして、このとおりのしゃべり方になってい

ます。県内 33 市町村もラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会に入っており、まさに県と市町村が一体となりました。また、経済団体、マスコミも含め、オール岩手でラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会を組織し、準備を進め、本番を迎えました。そして、こういった結果になりまして、開催都市は釜石市でございますが、釜石のみならず全県民が主役となって、ラグビーワールドカップ 2019 に取り組めたのではないかと考えております。みんなでおもてなしを行い、みんなで感動を共有し、そしてしっかりとこれまでの感謝を伝えるといった一連の情報発信といたしますが、交流といったものは、短い期間でしたがよくできたと思います。

伊藤勢至委員おっしゃるとおりで、もう一回試合があれば、もっと交流が深まり、きずなが生まれたと思います。ラグビーワールドカップ 2019 の準備を進めていく間に先ほどのありがたい手紙もそうですがいろいろなアイデアが出てきました。そういったことが結実したプレゼンテーションでございました。ありがたい手紙以外にも、内陸のキャンプを迎え入れてくださった市町村のみならず、内陸の全市町村がいろいろな形で、いろいろな人たちがいろいろな場でラグビーワールドカップに関心を持っていただき、そして何かをしようとしていただいた結果がああいった形で結実したと思います。イベントをやることの意味は、準備期間にみんなが主体的にいろんなアイデアを出し合って、単に試合の開催のみならず、その機会に何をやるということで、一般的に言えば機運醸成とか盛り上げという言葉になってしまいますけれども、いろんなアイデアを出し合って、それをやってみよう、これをやってみようという形で、どんどん膨らんできた取り組みがこのラグビーワールドカップ 2019 だったと思います。希望郷いわて国体・希望郷いわて大会も同様でございますが、イベントの持つ力はすごい力でありまして、ましてラグビーのまちである釜石、ラグビーの県である岩手において、二度とないかもしれないと言われておりますが、このラグビーワールドカップ 2019 が開催でき、いろいろな機会に、いろいろな創意工夫、いろいろな連携、協働が全県で見られ、非常に感慨深いと思っております。

ラグビーワールドカップ 2019 に限らず、今後においてもこうしたイベントの力を使って、スポーツの力もそうですし、文化においても同様だと思いますが、こういった形で県民が一つのワンチームとなって、いろいろなことに取り組んでいける機会がこれからもどんどん生まれてくるよう願っております。なかなか厳しい道ではありますが、いろいろな形で、文化スポーツ部としても次なる展開について考えております。

○齊藤信委員 ラグビーワールドカップが日本で開催されたことも歴史的だったし、同時に日本代表のすばらしい活躍で、本当に盛り上がった大会だったと思います。特にその中で、釜石鶴住居復興スタジアムでラグビーワールドカップが開催されたことも、歴史的な出来事だったのではないかと思います。ラグビーのまち釜石が開催地になった、そして東日本大震災津波で大きな被害を受けた釜石鶴住居で世界に感謝するという大会にもなったということで、いろいろな意味でラグビーワールドカップ 2019 岩手・釜石開催が、私たちにとっても歴史的で感動的な大会になったと思います。

それで、最初にお聞きしたいのは、ラグビーワールドカップ 2019 岩手・釜石開催という形で記録誌がつくられるかと思いますが、どういう形の記録誌なのか。また、この出来事をどのように記録して今後に残し、生かしていくのかをお聞きをしたい。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ 2019 推進室長

記録誌の関係でございますが、ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会において、ラグビーワールドカップ 2019 大会そのものに関する記録誌について作業を進めており、次のフランス大会に引き継ぐため、来月をめどに作成していると承知しております。斉藤信委員から御指摘があったとおり、我々ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会としても、誘致から開催決定、そしてその準備のためのラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会のさまざまな取り組み、そして今菊池文化スポーツ部長からお話がありましたとおり、大会に合わせてさまざまな県民の方々に活動していただいたという部分についての記録誌を作成し、業者の入札も済んで、3月上旬くらいをめどに発行する予定で進めており、できましたら委員の皆様にお示ししたいと思っております。

○斉藤信委員 私も9月25日のフィジー対ウルグアイ戦を観戦することができました。快晴の最高の天気で、先ほど出ましたけれども、緊迫した試合で予想外にウルグアイが勝つという内容で、世界レベルの大会を堪能させていただきました。この成功の背景には、事前の準備と申しますか、7月に開催されたワールドラグビーパシフィック・ネーションズカップ 2019 が大変重要な取り組みだったのではないかと。日本対フィジー戦で、ラグビーワールドカップ 2019 大会において釜石市で試合をするフィジー代表と、何よりも日本代表の試合ということで、私は選挙前だったので見る余裕はありませんでしたが、すばらしい企画であり、そして1万3,000人余という大会にほぼ匹敵する規模で行われました。そこでさまざまな課題が明らかになって本番に向かうことができ、そういう意味で、この取り組みは中身も、そしてその後の対応にも大変生きたのではないかと思います。

記録誌の関係では、新日鉄釜石ラグビー部が日本選手権7連覇をした。そしてラグビーのまち釜石がつくられてきた。そしてその当時のスターが釜石市でラグビーワールドカップをやらうと呼びかけてきた。ここにストーリーがあったのではないかと思いますので、そうした地域の歴史、そしてラグビーのまち釜石をつくってきた方々の歴史もきちんと記録され、今後に生かされるべきではないのかと思います。

2点目にお聞きしたいのは、10月13日のナミビア対カナダ戦は、台風第19号が12日、13日に釜石市に接近することで中止となった。これは、災害大国日本で開催したある意味宿命のような感じがするのですけれども、日本で開催するとういうことがあるという一つの教訓だったのではないかと思います。先ほども紹介されましたが、試合が中止になったにもかかわらず、カナダ代表がボランティア活動を行い、1,300万人がその活動を報告したツイッターを視聴したことで、大変なレガシーになったのではないのかと思います。そして、ナミビア代表も宮古市で市民と交流しました。中止になったけれども、さすがワールドカップ代表だけあって、単なる中止にさせなかったという取り組みも大変貴重だった

と思います。

ただ、私が気になるのは、試合中止の決定がぎりぎりでした。既にJRなどは計画運休を決めており、恐らく台風を何度も体験している日本だったら、もっと早く決断したのではないかと思います。日本での開催が生涯に1度のような大会でしたから、ラグビーワールドカップ2019組織委員会は最後まで開催の可能性を追求したということだったと思いますが、決定が余りにも遅過ぎたのではないかという感じもします。そういう点で、試合中止がラグビーワールドカップ2019組織委員会の中でどんな議論がされていたのか、そして遅れたことによる影響が開催地周辺になかったのか伺う。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ2019推進室長

中止となったカナダ対ナミビア戦の過程でございますが、ラグビーワールドカップ2019組織委員会では、台風等の自然災害が発生して中止等をしなければならないときの対応ということで、緊急時の対応計画を定めております。台風の場合は、試合の3日前、危機管理対応チームを立ち上げて具体の検討をして、キックオフの24時間前に開催に関する方針を協議して、遅くとも6時間前までに対外的な公表をする取り扱いになっております。

10月13日のカナダ対ナミビア戦に関しましては、危機管理対応チームを10月9日に立ち上げて、10月12日の愛知県豊田市で開催予定のニュージーランド対イタリア戦、そして神奈川県横浜市で開催予定のイングランド対フランス戦の開催中止を2日前である10月10日に発表しました。そのことについてイタリアチームからワールドラグビー側への反発といいますか、決定が早過ぎるのではないかという意見等もありました。釜石市ではラグビーワールドカップ2019組織委員会に、試合前日である10月12日の13時に釜石市で高齢者等の避難準備情報が発令され、釜石市に災害対策本部を設置し、14時半の時点において釜石市で避難勧告が発令された旨を伝えまして、選手、大会関係者、ボランティア、観客の安全を確保するために、安全第一で命を守るという東日本大震災津波の教訓を伝える釜石開催の意義を踏まえ、的確な判断を早期に行うように働きかけを行っております。

そうした状況等を踏まえましてラグビーワールドカップ2019組織委員会では、12日の20時半に、最終の判断は13日の早朝を予定しており、最後まで実施に向けた可能性を模索するが、早朝にかけて釜石市に影響があり、試合の実施は極めて困難であり、最終的に中止の判断をさせていただく可能性があるというコメントを公式ホームページに発出されております。結果的にラグビーワールドカップ2019組織委員会では、13日の午前5時半、試合開始の6時間45分前に、交通機関の乱れ、土砂災害の可能性、そして観客や選手、大会を支えるボランティアなど、全ての関係者の安全を確保することが困難ということで、試合中止を判断すると発表がされたところでございます。

ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会では、この中止の発表に合わせましてライナーバス、パークアンドライド、シャトルバスの運行中止に伴う払い戻しの案内、観戦チケットの払い戻しの案内、同日のファンゾーンの中止をアナウンスするほか、午前8時に、盛岡市でのパブリックビューイングの中止もアナウンスしております。

そういったことで、前日から東京方面から来る新幹線が午後からとまった影響もありましたので、現地に入ることも難しいという状況もラグビーワールドカップ 2019 組織委員会にお伝えして、皆さんの安全を確保する方針で進めてまいりました。そういった経緯等があり、試合中止となったという状況でございましたので、ボランティアについては前日の 12 時には、活動が難しいということで、かなりの人数をキャンセルして、無理して来ないようという形にしましたが、前日のプレスの対応といった部分で、大会公式のボランティア等をやられた方々もおられたということもありましたので、そういった部分での影響はあったと考えおります。

○**斉藤信委員** 歴史的な大会であり、余り経験のない状況だったこともあり、判断が難しかったと思うけれども 12 日の段階で、既に沿岸の各自治体は避難勧告を出しているわけです。そして、13 日の未明に特別警報が出るという状況でした。私たちも被災した現地を見ましたけれども、台風第 19 号により沿岸地域は 400 ミリメートルを超える今までにない大雨の中で、沿岸自治体は災害対策、台風対策を優先せざるを得ない。とてもラグビーワールドカップの試合を行う体制をとり切れなかったのではないかと思います。ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催実行委員会にもそういう旨を伝えたとと思います。危機管理のマニュアルがあったにもかかわらず、13 日の午前 5 時半のぎりぎりの最終決定は、災害を経験している我々から見れば、ちょっと遅過ぎたのではないか。これについては、これからさまざまな大会があると思いますので、しっかり教訓にしていく必要があると思います。

三つ目ですけれども、幸い 9 月 25 日にフィジー対ウルグアイ戦という素晴らしいゲームが行われました。そして、三陸鉄道も全線開通して黒字基調であって、ここまでは大変よかったですと思います。ラグビーワールドカップだけではないと思いますけれども、ラグビーワールドカップにかかわる経済効果、さまざまな観光客の入り込みがどうだったのか。台風第 19 号で中止になったことでの経済的な損失はどう把握されているのか示していただきたい。

○**木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ 2019 推進室長**

経済効果にかかわる部分ですが、まず宿泊の関係につきまして、県内の主な宿泊施設や旅行者から聴取した状況によりますと、釜石市、大槌町、宮古市、大船渡市、遠野市等の釜石周辺部では、関係者、観戦者、ボランティアで客室が埋まって、稼働率、宿泊の単価といった面でも効果があったと伺っております。また、盛岡市、花巻温泉でも、ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催に係る宿泊があったと聞いております。

トータルの経済効果の数字については、現在、岩手経済研究所に委託して、今月末を目途に取りまとめをしている最中なので、全体の数字はありませんが、今回の資料にも記載させていただきましたが、釜石鶴住居復興スタジアム内の物販という面で見ますと、9 月 25 日のフィジー対ウルグアイ戦は前々日まで食べ物の持ち込みが禁止になっておりましたけれども、ラグビーワールドカップ 2019 開幕戦と横浜で行われた次の試合で、ビールは買えるが、食べ物が買えない観客が続出したことで、9 月 23 日の試合から食べ物の持ち込み

を可として、飲み物については自分の水筒に入れて、入場時に試飲するという形であれば大丈夫ということになりました。そういった形でスタジアム内の飲食でいきますと、9月25日のフィジー対ウルグアイ戦では44業者でおおよそ1,600万円の売り上げがあったと聞いております。

テストとなりましたパシフィック・ネーションズカップ2019の際は、食べ物も飲み物も持ち込み禁止になっていたわけですが、ほぼ同額の1,600万円の売り上げがございました。ですので、影響という面で見れば、10月13日のカナダ対ナミビア戦があれば、そのぐらいの規模の売り上げがスタジアム内で見込まれたのではないかと見ております。

あとファンゾーンでいきますと、28日間開催し、開催都市の中では最長になりますが、延べ売り上げが1,000万円となっております。あわせて、釜石まるごと味覚フェスティバル、三陸ぐるっと食堂など主に週末に周辺のイベントを行いまして、そういうイベント等でも850万円ほど売り上げがあったと聞いておりますので、さまざま形でその部分での効果があったのではないかと考えております。

中止にかかわっての部分となりますと、宿泊も予約されていて既に12日のうちに入られていた方は来られていたのですが、そうでない場合はキャンセルもございました。

○斉藤信委員 最後ですけれども、今回の歴史的、感動的なラグビーワールドカップの開催を今後はどう生かすのかということで、先ほどの報告や、資料の中にもありましたが、これまでニュージーランドの高校生を招いてラグビーと防災学習を通じた交流が2018年、2019年と続いており、こういう取り組みはぜひ継続していただきたい。私が観戦をした9月25日のフィジー対ウルグアイ戦の小中学生の応援は、私たちから見てもすばらしいものであります。そういう意味でいくと、子供たちの中でこのラグビーワールドカップ2019釜石開催のレガシーを継続させていく、国際的な交流を引き続き継続していくことが大切なのではないかと。それを内陸も含めた全県的なものにしていくことも大事であります。

もう一つ、釜石鶴住居復興スタジアムを今後どのように活用、維持していくかについて、新しい切実な課題になっていると思います。釜石市は民間に任せる検討も既にされていることです。釜石鶴住居復興スタジアムをどのような形で活用していくかについて、新たな釜石のまちづくりに生かしていくことも復興の取り組みの一環だと思うのです。釜石鶴住居復興スタジアムは、釜石市で一番被害の大きかった鶴住居にスタジアムをつくって立派な大会を開催した。それがまちづくりの力になり、復興の力になった。これは大変大事な課題だと思いますので、そういう点でも県の継続的な支援、また全県的な取り組みが必要だと思いますけれども、この点はいかがでしょうか。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ2019推進室長

ラグビーワールドカップ2019の盛り上がりを踏まえてということでございますが、こういったラグビーの機運の盛り上がりを持続するよう、県としての具体的な取り組みについて、岩手県ラグビーフットボール協会とよく相談しながら進めてまいりたいと考えております。そして、今回のラグビーワールドカップ2019を契機に高まりました本県への興味、

関心が継続するように、大会中に行った情報発信等も、継続して取り組んでまいりたいと考えております。

今後の具体的な取り組みになりますが、メモリアルイベントの開催、先生からも御指摘ありました釜石鶴住居復興スタジアムを活用した大会、合宿の誘致、県外や海外との交流、ラグビー体験会や小中学生向けのラグビー体験会、そして選手等との交流会の実施など、ラグビー県岩手の定着に向けた取り組みを行うということで、来年度予算に向けても調整を進めております。

そして、釜石鶴住居復興スタジアムの活用についてでございますが、釜石市では昨年10月に釜石鶴住居復興スタジアムの利活用に向けて運営委員会を立ち上げ、県がオブザーバーとして参加しております。斉藤信委員から御指摘のとおり、今後釜石鶴住居復興スタジアムの運営主体を、釜石市から民間主導へ移行する検討をしており、時期は令和3年4月を目指しております。来年に向けた釜石鶴住居復興スタジアムの利用についても、子供たち、高校生、社会人、そしてシニアの皆さんと、さまざまな世代の活用も予定されておりますけれども、県といたしましては、このスタジアムが釜石市民のみならず県民にとってラグビーなどのスポーツを初めといたしまして、教育、文化、観光などさまざまな分野で積極的な活用が図られることが重要であると考えておりますので、県といたしましては、釜石市を初めとする関係者との協議にしっかりと参画してまいりたいと考えております。

○斉藤信委員 カナダ対ナミビア戦の再戦がさまざまところから期待をされておりますが、この点についてどのような取り組みがなされているのか、可能性はあるのかお聞きして終わります。

○高松オリンピック・パラリンピック推進室連携調整課長兼ラグビーワールドカップ2019推進室大会運営課長 カナダ対ナミビア戦の再戦についてでございます。その実現性に向けては岩手県ラグビーフットボール協会、釜石市、県が一緒になって検討し、さらには主催いたします日本ラグビーフットボール協会にも相談を持ちかけております。また、日本ラグビーフットボール協会の下にある関東ラグビーフットボール協会とも連携を図りながら、その実現の可能性についてワールドラグビー側、あるいは対戦国となるナミビア、カナダのラグビー協会に打診をしていただいている状況でございます。また、今後につきましても、今回のラグビーワールドカップの運営主体となっておりましたラグビーワールドカップ2019組織委員会ともしっかりと連携を図りながら相談をしてまいりたいと考えております。

○城内よしひこ委員 ラグビーワールドカップ2019の大成功、大変御苦労さまでした。私も、にわかラグビーファンとして大変感動しており、これまでもラグビーワールドカップ2019の案件については、常任委員会や本会議場で質問をさせていただいたところであります。

そこで、今回中止になったカナダ対ナミビア戦についてですが、これまでの質問の際には、沿岸部につくるスタジアムということで、津波対策についてお伺いしてきたところで

あります。その辺の対策はしっかり行うというところでありました。ただ、中止になった原因である台風第19号の被災状況を見ますと、鶴住居復興スタジアムの背後から土石流が入ったということで、前門の虎、後門の狼ではないですが、そういった対策もしっかりととるべきではなかったのかと言わざるを得ないと思います。これは、不特定多数の多くの方々が集まる場所をつくる上で指摘せざるを得ない問題かと思うところではありますが、そういった対策等はこれまで考えていたのかお伺いしたいと思います。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ2019推進室長

釜石鶴住居復興スタジアムの安全対策でございますけれども、釜石鶴住居復興スタジアムは津波の被害があった鶴住居小学校、釜石東中学校が建っていた場所でございますので、かさ上げをした上で、まだ工事中の部分はありますけれども、水門もラグビーワールドカップ2019釜石開催時には機能が発現するというので、安全対策を進めてきております。

そして、城内よしひこ委員から御指摘ありましたとおり、西側の避難をするための階段を設けた箇所が崩れてしまったわけでございますが、ここは市の山ではなかったということで、地権者からの御理解をいただいて、緊急時に逃げるのが可能なように階段をつくらせていただいたところです。応急的な復旧はさせていただきましたが、今後釜石鶴住居復興スタジアムをさまざまな形で利用することで、安全対策に万全を期していくためには、そういった形も、考えていないわけではなかったのですけれども、十分詰めていく必要があると思いますので、今後の釜石鶴住居復興スタジアムの環境部分の整備等について、しっかり釜石市と連携して進めていきたいと思っております。

○城内よしひこ委員 災害対策はしっかりとやっつけていかないと、多分この岩手も今後、多量の雨が降る時代になってくると思っております。そういった準備をしておかないと、たくさんの方々がいらしているとき、何日かたくさん雨が降って一気に土石流があると、大きな事故、災害につながりかねないと思うので、しっかりとその対策は関係する皆さんと連携をとって対応してほしいと思います。

そこで、先ほど斉藤信委員がお話しになりましたけれども、カナダ対ナミビア戦が中止になったことは大変残念でありました。一方、いい意味でわかラグビーファンの心に火種を残したのではないかと思います。バーンアウトしなかったという意味で、燃えつき症候群につながらない。斉藤信委員もわかファンだと思うのですけれども、もう一回見たかったという話が、そういった方々から声が出るということは、持続をする上では、ある意味、後押しになるのではないかと思います。大成功のラグビーワールドカップ2019であり、日本ラグビーフットボール協会も大分もうかったという話があります。ぜひ日本ラグビーフットボール協会に少し吹っかけるぐらいの気持ちでお話をしてほしいと思うのです。そういったことが、ラグビーワールドカップ2019が成功して、そしてことし開催される東京2020オリンピック・パラリンピック大会にホップ・ステップ・ジャンプでつなげていく上でも後押しになるだろうし、復興五輪という意味では、ラグビーワールドカップ2019釜石開催は唯一沿岸で開催し、新設で釜石鶴住居復興スタジアムをつくりましたので、成功

に結びつける上でも、カナダ対ナミビア戦開催の機運を高めていくことがラグビーワールドカップ 2019 の果たす役割であって、そして東京 2020 オリンピック・パラリンピックにつながるのではないかと思うところであります。何らかの手応えはあるのでしょうか、関係者はもうその気になっていますので、しっかりとやってほしいと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○高松オリンピック・パラリンピック推進室連携調整課長兼ラグビーワールドカップ 2019 推進室大会運営課長 カナダ対ナミビア戦については、皆様の気持ちというのは我々も重々承知しておりまして、先ほど斉藤信委員からの御質問にもお答えしたように、今度ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会にお邪魔をいたしまして、いろいろ相談をさせていただきたいと思っております。というのは、ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会もこの3月末で解体して、その業務は日本ラグビーフットボール協会に引き継ぐ状況になっております関係から、今回のワールドカップの実績、経験、レガシーの事業の引き継ぎという部分にカナダ対ナミビア戦についてもいろいろ検討していただきながら、うまく引き継いでいただけるようお願いをしていきたいと考えております。

○城内よしひこ委員 あとは、釜石鶴住居復興スタジアムをどのようにに活用するかという上で、いま一步、忘れ物をしっかりと取り戻すような形でやっていかないと、なかなか次につながっていかないのではないかと思います。大変でしょうけれども、再試合なのかわかりませんがぜひ頑張って、試合を設定できれば、本当にスポーツはすばらしいと再度皆さんに感じてもらえる1年になるのではないかと思いますので、よろしく願いをして、終わりたいと思います。

○高橋穩至委員 確認程度の質問ですが、スタジアム入場者数が1万4,025人で、多分チケットは全部売っていたと思うのですが、私の知り合いとか、ラグビー経験者に、何回やっても抽選から外れて行けないのにあき席があったと聞かれるのですが、当然チケットを買っても来られない人はいると思うのですが、こういった状況だったのかお伺いしたいと思います。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ 2019 推進室長

チケットの販売については、ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会で取り扱いしておりますが、我々が伺っている限りでは、満席で売り切れだったと聞いております。この資料にもありますように、チケットは売れたが、入らなかった人もありますが、販売率は全試合で99.3%ですので、釜石で開催された試合分も全部売っていたと認識しています。

○高橋穩至委員 安心しました。しっかり説明したいと思います。

それと、北上市では希望郷いわて国体・希望郷いわて大会があつて、その前にも全国高等学校総合体育大会等があり、大きな大会を開催した結果、その後、施設を活用しようということで、さまざまな合宿誘致、大きい大会の誘致等をしております。実は事業を組む上で、今度なかなか場所がとれないという状況も出ています。これは、大きい大会だけではなくて、さまざまな試合、あるいは練習等もあると思うのですが、スタジアムの活用と

いう部分では、大きい大会もさることながら、例えば小さい大会とか、日ごろの活用といった計画については、今の時期ですと来年度の予定ということで来年の年間スケジュールを組むと思うのです。その利用予定についてわかっていたら教えていただければと思います。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ2019推進室長

釜石鵜住居復興スタジアムの関係でございますが、試合が終わった後、11月には映画の上映会、野球やラグビーの教室、ジャパンラグビートップリーグの2試合、小学生のラグビーの国際大会等々やられております。また主催者側の発表が済んでいないイベントがあるので、詳細の部分までは申し上げられませんが、3月ごろに小学5、6年生の女子のラグビーの交流、40歳以上のシニアの交流会、4月4日にはジャパンラグビートップリーグのNTTコミュニケーションズ対トヨタ自動車という試合が予定されています。それに合わせて高校ラグビーの交流会ができないだろうかという予定になっています。4月には海外の学生との交流試合をできないかということも検討しています。

釜石市でも、広く釜石鵜住居復興スタジアムを使っていただくということで、ラグビーワールドカップ2019があるということで今までは利用料を定めておりませんが、ことしの4月以降は利用料を求めていく形にはなりますけれども、小学校、中学校、あるいはラグビーだけではなくて、さまざまなスポーツ協会といった方々等へ確認をし、皆さんの利用の希望をとりながら、広く活用のための周知に努めていきますし、我々としても、いわてスポーツコミッション等々でのPRなどに力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。

○小西和子委員 ラグビーワールドカップ2019釜石開催の大成功、おめでとうございます。私は、1年前に行われた試合に行ったときに、さまざま苦言を申し上げたところでございますけれども、ラグビーワールドカップ2019釜石開催では、トイレも十分に準備していただきました。飲食については、7月のパシフィック・ネーションズカップに行った知り合いが食べ物を買えなかったということでしたが、ラグビーワールドカップ2019のフィジー対ウルグアイ戦の直前に、食べ物の持ち込みが認められましたが、十分伝わっていないところもあったと聞いておりますので、そこはちょっと残念だったかと思っております。でも、きちんと対策をとっていただきましたし、フィジー対ウルグアイの試合が終わって、観客が帰るとき、ハイタッチをやっていただけてすごく気持ちよく帰れたと思っております。

一番心配しているのは、釜石鵜住居復興スタジアムが今後どのように維持されていくのかです。北上選挙区選出の議員もおりますけれども、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会でどっちを会場にするかというときに、盛岡対北上で大変な綱引きをしたのですけれども、一つの県に二つも大きな陸上競技場は要らないということで北上市にしました。北上市も、北上総合運動公園を維持するのが大変だと聞いております。

そこで、令和3年4月からは釜石鵜住居復興スタジアムを民間に委託するということですが、それまでの1年間は、釜石市と岩手県、両方の予算で運営するのか。概要をちゃん

と見てこなかったのですが、そういった予算をつけているのか。運営の内容については、多くの委員の方の質問でわかりましたけれども、そこをお聞きしたいと思います。

○木村オリンピック・パラリンピック推進室長兼ラグビーワールドカップ2019推進室長

釜石鵜住居復興スタジアムの運営にかかわる部分でございますけれども、釜石市が整備したスタジアムでございますので、運営にかかわる管理費用も釜石市の予算で措置することになります。ラグビーワールドカップ2019釜石開催を実施する際、県と釜石市が共同の開催都市となりましたことから、大会運営にかかわる費用は県と市で出しておりますが、釜石鵜住居復興スタジアムについては釜石市で予算措置することになります。ただ、利活用という面では、一緒に考えていかなければならない部分でございますので、そういった予算を聞かれますとありませんけれども、十分そういった有効な利用が図られるように、そしてラグビーワールドカップのレガシーが活かされるようにという視点で一緒に考えてまいりたいと考えております。

○小西和子委員 最後の一つ、皆様方に申し上げておきたいことがあります。9月25日のフィジー対ウルグアイ戦に、私の高校、大学の同期の方が観戦をして、涙を流して喜んだということがございます。第25回国民体育大会のときは、私どもは高校2年生でしたが、その方はラグビーの選手で県選抜だったのでしょうか、大活躍をして好成績をおさめたということでした。トップスターでしたので、社会人ラグビーや大学から勧誘があったのですが、それを断って岩手県の高校教師になり、後進を育てました。そして、皆様方もおわかりの、岩手県スポーツ振興課の課長もやりまして、希望郷いわて国体のコンダクター、総監督をして、冬季の国体には先頭に立って行進をしました。本当は先頭に立って行進をする役だったのですが、夏季の国体の直前に倒れまして、身動きできない体になって、話もできなくなりました。それから3年がたって、関係者はしょっちゅうお見舞いに行って、いろいろ話をして、ラグビーワールドカップ2019釜石開催の話もしました。フィジー対ウルグアイ戦の当日、大学のときの体育科の同期が中心で、車椅子で試合にお連れしました。私どももすごく感動しましたけれども、彼は第25回国民体育大会のときはトップスターだったわけです。その彼が川口仁志でありまして、フィジー対ウルグアイ戦を見て涙を流して感動しました。残念ながら亡くなりましたけれども、そのすばらしい試合を見て、天国で今も見ていると思うのですけれども、一友人として皆様方にお礼を申し上げたいと思います。本当に頑張って、希望郷いわて国体を成功させるために身を粉にして、最後倒れてしまった。そこが余計なのだと思うのですが。そういうことをお伝えしておきたいと思います。このことについてコメントというのもあれですけれども、菊池部長、何かあったらお願いします。

○菊池文化スポーツ部長 川口仁志先生のことだと思って聞いておりました。感慨深かったと思いますし、そういった形であって不本意だったと思いますが、それでも現場に出たということは、私も愛する一人ですが本当にラグビーを愛する人であり、観戦でき本当によかったと思っております。御冥福を祈っております。

スポーツの力もそうです、文化の力もそうですと言いましたが、ラグビーの力も不思議な力があって、あんなに乱暴なスポーツですけれども、規則、規律に従って、紳士としてプレーする、まさにスポーツマンシップの代表的、典型的な表現の中でやられているスポーツでして、岩手県民はもともとラグビーを愛する県民なのですけれども、もっとラグビーが浸透していけばいいと思います。にわかファンという区別なく、みんなが目に触れ、ボールに触れ、グラウンドに遊びがてら出てもらえるような環境が用意できればいいと思っております。

生涯スポーツの面でも、ラグビーについて力を入れていかなければならないのではないかと、先ほど協会の話も出ましたけれども、ラグビー協会などと話し合っており、例を出しましたが、子供からシニアまでさまざまな形でラグビーをそれぞれのレベルで自分のものにしていただければ、岩手はいろんなスポーツが盛んですが、ラグビーも大きな柱になっていく。それがまた県民の力になればいいと思っております。これからも県、行政は後押し役です。主役は民間、県民の皆様方ではつらつとプレーするし、またラグビーをテーマとした、材料とした商売、いろんなことにも展開してもらえばいいと思っております。そういう形のラグビーのまち、ラグビーの県岩手がもっと進んでいけばいいと思っております。我々にできることをさまざま考えながらやっていきたいと思っておりますので、これからも御協力、御支援をお願いしたいと思います。

○千葉秀幸委員 ラグビーワールドカップ 2019 岩手・釜石開催、私も委員の皆様と同様、大成功に終わったと思っておりますし、感謝申し上げます。

このラグビーワールドカップ 2019 岩手・釜石開催をこれからどう伝え、記憶に残していくかが大事になってくると個人的には思っております。それで、記憶に残すことからすると、岩手県の釜石市でラグビーワールドカップが開催されたという事実が一つ。もう一つ、台風第 19 号の影響により試合を全て行うことができなかったことは、これから間違いなく皆さんの記憶にも残り、受け継がれていくことだと思っておりますが、それよりも大事にさせていただきたいのは、カナダ代表とナミビア代表がボランティアをしてくれたことを、私はぜひともこれから受け継いでいっていただきたいと思っております。というのは、ボランティアしたというレガシーを残していくと、代表チームに敬意を表することにもなると思っておりますし、何よりスポーツはすばらしいということで、スポーツを通じてボランティア精神、言葉が通じなくても気持ちが通じるということにつながってくると思っております。これから生まれてくる子供たちなどにも、代表がボランティアしてくれたということもぜひとも受け継いでいっていただきたいということを要望として申し上げます。

○菊池文化スポーツ部長 まさに御指摘のとおりでございます。カナダ対ナミビア戦の当日の朝、釜石の事務局にカナダ代表から電話が入りまして、僕らに何かできることはないかというのがボランティアの始まりです。ナミビア代表からも同様の考えということで、ではということで、その言葉だけで我々もうれしくて、力を得て奮い立ちボランティアという形になりました。そういった精神はスポーツマンだけでなくいろんな方々、アー

ティストであったり、文化人であったり、普通の県民も、全く直截にといいますか、自然な形で、僕らに何かできることということが普通に出てくるというのが、これまでもずっと助けてくださった海外の人たちですけれども、すごく身近に感じた瞬間でした。

カナダ対ナミビア戦の中止の話も、我々も実はもうできないだろうと、12日からさんざんいろんなことを言って、最終的な手続について議論になりまして、選手たちもすごく悲しい思いをしながら当日を迎えているわけです。ボランティアの人たちもそうです。内々は夕方以降、できないという前提の動きをせざるを得ない状況もいろいろありました。発表はああいった形になりましたけれども、ワールドラグビーやラグビーワールドカップ2019 組織委員会とも協議を重ねて、釜石、沿岸はこういう状況と伝え、先ほど斉藤信委員がおっしゃったように、震災被災地として、これは絶対ノーですというのはさんざん言って、議論して、ああいった段取りになったのです。

イタリアチームからの意見など、いろいろ背景があって公式発表がなかなかできないといった経過があった中で、みんな何とかしたいという思いでした。それは、ゲームをしたいというのがあります、釜石で何かしたいということだったと思うのです。釜石に来たのだから、釜石に来て何もしないわけにはいかないという直截な気持ち、きれいな気持ちがいろいろなところにあふれていたのがすごく感慨深い1日でもありましたし、この何年かの準備の結果があり、あの日だったというのは我々もみんなで共有してしまして、一番最初にレガシーとして我々の気持ちの中で生まれたのは、そういう人の心の部分です。なので、いろんなイベント、メモリアルイベント等いろいろ考えていくと同時に、御指摘のとおり、どうやって伝えていくか、あの姿、心をどう伝えていくかというのを考えていかなければならないと思っております。なかなか難しい取り組みになってきますけれども、それについてもいろいろ考えていきたいと思っておりますので、これについてもどうぞよろしくをお願いします。

○柳村一委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○柳村一委員長 ほかになければ、これをもってラグビーワールドカップ2019 釜石開催についての調査を終了いたします。

この際、何かありませんか。

○斉藤信委員 せっかくの機会ですので。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、文教委員会も12月にホストタウンとして、パラリンピックへ向けて大変すばらしい取り組みをしているということで遠野市の調査をしてきました。今東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた、ホストタウンも含めた取り組みは怎么样了のか、そうした現状、課題についてお知らせください。

○松崎オリンピック・パラリンピック推進室事業運営課長 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた準備状況でございますが、まず大きな柱といたしましては、今年度3月に行われますが、オリンピック聖火リレーに先立ちまして、航空自衛隊の松島基地に聖

火が到着します。その聖火を使いまして被災3県で展示をするという復興の火というイベントでございます。こちらについて、現在関係機関と調整を進めております。

二つ目でございますが、いよいよ聖火リレーが3月26日、福島県からスタートいたします。岩手県は6月17日から19日の3日間行われ、その調整をしております。その後オリンピックが行われます。そして、オリンピックの後、パラリンピックがいよいよ開催いたします。そのパラリンピックに先立ちまして、8月13日から17日のお盆の期間中に、パラリンピックの聖火を使ったフェスティバルということで、県内33市町村から火を集めまして、それを持って東京に出立し、パラリンピックの聖火の火とするといったイベントを市町村と調整しております。

○高松オリンピック・パラリンピック推進室連携調整課長兼ラグビーワールドカップ2019推進室大会運営課長 ホストタウン関係のお尋ねでございましたが、まずホストタウンには通常のホストタウンのほかに、被災地に認められております復興「ありがとう」ホストタウン、それから先ほど斉藤信委員からお話のありました遠野市は共生社会ホストタウンで登録をしており、1月15日現在で18の市町村が登録されております。特に、被災3県の自治体を対象とした復興「ありがとう」ホストタウンにつきましては、33市町村のうち11の市町村が登録されておまして、本県の機運も高まってきている状況とっております。県といたしまして、登録となった市町村に対しましては、大会終了後を見据えての交流計画の策定、それから実施の支援を行うとともに、ホストタウンの登録を目指す市町村に対しまして、先進事例の紹介、相手国との交渉の調整に取り組んでまいります。

○斉藤信委員 聖火リレーについて、県内33市町村の全部は回れず、回れない五つの自治体が何とかならないかという話がありました。これは、通らないところも含めて、近隣でその地域の代表が聖火リレーに参加するとなっていると思いますけれども、そのことについて、まさに全市町村挙げてのそういう取り組みということなのかどうか伺います。

二つ目は、ホストタウンの話で、私が遠野市に行って感心したのは、一つは国体のレガシーをどう生かすかということで、いち早く共生社会ホストタウンになったということで、共生社会ホストタウンというのはかなり前向きで、まちづくりと一体なのです。国際交流であり、そして障がい者でも誰でも住みやすい地域をつくる、まちをつくるということで、大変すばらしい発想であり、前向きな取り組みだと思ってきました。そういう意味で、今かなりの自治体で復興「ありがとう」ホストタウンという取り組みが行われておりますが、特徴的な中身があればお知らせいただきたい。

○松崎オリンピック・パラリンピック推進室事業運営課長 聖火リレーが実施されない5町村に対しての対応について、御回答させていただきます。

まず、斉藤信委員御指摘のとおり、県としましては33市町村全てのリレー通過を目指して東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と協議してきたところですが、残念な結果になったのは周知のとおりでございます。その一方、県といたしましてはリレーが実施されない町村に対しましても、リレーは実施されませんが、ランナーは33市

町村全てから選出されます。そのランナーが近隣の市町村を走ることに對して、どの区間を走るとか、できるだけ賑やかなところを走っていただくといったところの橋渡しといった支援をさせていただいております。

また、あわせましてきのう行われました県と市町村との意見交換会においても、町村会会長でもあります山本軽米町長からも、こういうことがあったが、市町村一丸となって機運醸成に取り組んでまいりたいというありがたいお話もあったところでございます。それを受けまして、例えばパラリンピックの火は33市町村全てから回収しますので、その火のにぎやかし等につきましても、できるだけ手厚く、伴走しながら支援していきたいと考えております。

○高松オリンピック・パラリンピック推進室連携調整課長兼ラグビーワールドカップ2019推進室大会運営課長 ホストタウンの特徴的な取り組みということで、先ほど齊藤信委員から積極的な取り組みということで紹介のあった遠野市でございますけれども、昨年7月に、パラリンピック競技5人制サッカーブラジル代表チームの事前キャンプの受け入れ、パラスポーツ体験会、歓迎交流会、それから日本代表との練習試合が催されております。そのほかに、昨年7月から8月にかけて八幡平市で、ルワンダの自転車、陸上、ビーチバレーといった競技の代表の方々との事前合宿の受け入れを行いまして、リンドウ生産者との交流会といった取り組みも行われております。また、昨年9月におきまして、花巻市、大船渡市がアメリカ、ロサンゼルスでのジャパン・ハウスで、復興「ありがとう」ホストタウンの取り組みということで情報発信なども行っております。

○柳村一委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○柳村一委員長 ほかになければ、これをもって本日の調査を終了いたします。

以上をもって本日の日程は全部終了しました。本日はこれをもって散会いたします。